

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 1 月 16 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103742		
法人名	有限会社 平野		
事業所名	グループホーム ファミリーホーム		
所在地	〒731-3361 広島市安佐北区あさひが丘1-1-10 (電話) 082-838-4165		
自己評価作成日	平成29年12月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103742-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103742-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年1月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

運営面では、困難事例の受け入れや精神科患者等の対応をはじめ、柔軟にご利用いただける施設として活動しています。例年行ってきた研修や行事はそのままに、新しい取り組みを続けております。また、看取り介護の実績もあり、昨年度は法人（同一敷地内）にて約20件の対応を行いました。他界することの意味や生存していることの意味を見つめなおし、日々の介護へフィードバックできるよう1件ずつを大切に看取っています。また、高齢者の生活全般において医療行為をどれだけ実施するのか？それは延命につながるのか？高齢者の持つニーズは反映されるのか？を課題とし、日々検討を行っております。更に人権、権利についても同様に捉えられており、いづれ来る安らかな終末をご家族と共に歩めるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は「ファミリーホーム」という名の通り、利用者、職員を含めた家族的な運営に心がけており、処遇困難な利用者の受け入れや、医療との連携を取りながら終末期の看取り対応、さらに、身寄りのない利用者の死後の対応に至るまで、利用者にとってまさに家族同様の姿勢で介護に臨んでいる。

事業所の周囲はのどかな田園風景が広がり、四季折々の景色が楽しめる環境の中、施設長も含めた職員自身が楽しみながら利用者の生活を支える取り組みがなされている。また、職員の定年もなく、施設長と職員とが気軽に意思疎通を行っているため、事業所運営に関する意見交換も盛んである。

さらに、事業所として広島県西部のグループホーム事業所交流会の役員を務めているほか、近隣のグループホーム同士の交流も積極的に行うことで、事業所間の情報交換をはじめ、より良い運営に努めている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念があり、近づく為に事業所で目標をもって取り組んでおり、毎朝朝礼にて揃り合わせている。	法人の理念として「より家族的であること」「より住人であること」を掲げている。利用者は地域の一員であり、役割があるということを、ミーティングなどの振り返りの場で職員同士確認し合うことで、行事やイベント等で利用者に役割を持ってもらうような対応につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会のお祭りや行事に参加している。当地区に安佐町連絡会を設置し、4ヶ所のGHが合同で地域の中に出かけ行事を開催している。また、小・中学校や保育園の行事も参加している。	事業所の代表自ら地域住民となっているほか、地域団体や小中学校の行事やイベントへの協力をはじめ、自治会行事への参加も行っている。良好な地域との関係を保っている結果、地域のホールを借りて近隣のグループホームとともに風船バレー大会を行うなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人全体で情報を共有し、地域との協力体制を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では評価の報告を行っている。その中で地域のGHにも情報を公開しサービス向上につなげている。	会議には、地域の役員をはじめ、近隣のグループホームからも参加があり、事業所運営や行事に関する情報交換が行われている。会議から出た意見をもとに、近隣の事業所とともにカラオケの発表会やそうめん流し、パン食い競争など、利用者を活性化させるような行事の実施につながっている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市の介護保険事業者指導係と区役所の介護保険担当に報告している。また、当地区のGH合同行事にも行政参加を依頼している。	市からは処遇困難なケースについても相談を求められた際に、事業所として市と積極的に連携を取りながら協議している。また、グループホーム事業所交流会として市に意見具申をするなど、日常的に市との協力関係構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束とは何か？を常に職員と共に捕らえ、空間や衣類また、生活圏にいたるまで拘束とは括ることはないことを徹底している。</p>	<p>事業所で作成した対応フローチャートに基づき、やむを得ない事情や医療的な状況を踏まえ、状況や時間等を限定して身体拘束を実施したことはある。日常的には、法人の理念に基づき、人の生活面に着目した職員教育を行うことで、身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待のマニュアルを製作し職員に周知している。また、広島市の研修にも当施設のマニュアルを参考資料として提出し、内容を報告した。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体とし、後見制度に関わっている。また、実践的に後見人やご家族を対象とした、ケア指針のカンファレンスなどを展開している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>パンフレットや内部見学していただき、生活の様子を見ていただいている。また、過去の行事の写真等により活動の状況を伝えている。合わせて重度化した場合の指針も説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>不満や苦情を受ける体制を作っている。苦情・要望があれば運営推進会議にて報告する。</p>	<p>事業所全体として、利用者が食べたいもの、してほしいこと、といった希望を聞き出すように日頃から対応している。例えば「そばが食べたい」という利用者の希望には、施設長自らそば打ちを学び、利用者にはそばを振る舞うだけでなく近隣の事業所にも出張するなど活発な取り組みがなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>人事考課も導入し管理者と職員で具体的に話し合い取り組む。また、職員行事を年2回開催し、職員のモチベーションへ繋がるよう考慮している。</p>	<p>業務上の改善の場合、ユニットリーダーを通じて管理者から施設長まで意見を提案するようにしている。また、職員一人ひとりから施設長へ直接連絡することもでき、日頃から職員意見は施設長に言いやすい環境にある。その結果、花火行事の実施や、立ち座りしやすい椅子の作成など、事業所運営に反映がなされている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職務理念の徹底とモチベーションの維持が出来るようその評価をタイムリーに実施している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内で月1回の研修を行っている。また、各ユニットでも時間があれば研修の報告会を行う事になっている。また、安佐町連絡会にて年4回の研修を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>事業者の交流会に参加し他の事業所の状態や取り組みを聞く等、意見交換を行っている。また、外部研修等にも参加し、質の向上に努める。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>初回の面接時や見学時に話を聞かせていただき必要な情報は記録し職員で見れるようにしている。現在は入院中の方の入居希望が多く訪問回数を増やしニーズの汲み上げに努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>携帯電話、メールなどを公表しいつでも連絡が取れるような状態にしている。面会時には声かけを行い必要な情報提供を行う。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>介護保険制度の概要やサービスについて必要ならば情報提供している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>入居者の重度化の伴い、個別の時間を過ごすことが少なくなっている。訴えに対し、待っていただくことも多くなっているが、共に支えあっている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>認知症の状態や、利用者本人の様子を出来るだけ個別でお伝えする。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みのある物に囲まれて暮らしているように個室を使っいただく。家族写真も掲載。</p>	<p>利用者がそれまで大切にしていた関係を思い出してもらえよう、個室に好きなものを置いてもらっているほか、風船バレー大会に利用者の子どもが参加し、利用者が親として子どもを励ますことで親としての尊厳を保てるよう配慮するなど、利用者がそれまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士の関係にトラブルが生じないよう職員が気を配っている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	現在は関係性の継続に慎重に対応している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	コミュニケーションからニーズを引き出し、ケアプランを作成している。また、月1回、訪問看護、訪問歯科医、歯科衛生士を交えカンファレンスを行いサービスにつなげる。	利用者と日々のかかわりの中で思いや意向を把握し、本人本位に検討している。また、職員同士でカンファレンスを行い、申し送りからニーズの掘り起こしに努め、再度一週間後にカンファレンスで再検討するなど、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	ご家族や、前担当者よりの情報を頂いている。また、知人の面会時には許可があれば昔の様子を聞いている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	できるだけ情報を集めている。ご家族様にセンター方式の情報収集にご協力を求めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人様のニーズとご家族様のニーズを聞き取ってケアプランに盛り込んでいる。ご家族様がプランに協力できる場合はお願いしている。</p>	<p>カンファレンスや申し送りを土台として、利用者にとって必要なサービスをケアプランに位置付けている。利用者や家族の意見も反映し、現状に即した介護計画になるよう常に見直しが行われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の行動記録を使用して情報の交換を行っている。また、必要に応じて個別に状態を記録しデータの収集を行う。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険の制度に関わらず、共に支えあえる関係を本人やご家族と築き必要に応じて支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>学校の体験学習の受け入れや地域の民生委員見学などを受け入れている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>代行の受診結果で変化があればご家族に報告し直接主治医と相談していただく。細かい報告もその都度に報告している。</p>	<p>入居時に、24時間医療的な対応が可能な医療機関であることを前提に、医療機関を利用者に選んでもらっている。また、定期的な訪問診療が行われ、24時間体制で受診できる体制を整えているほか、受診時の付き添いを含め、適切な医療を受けられるような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>同一法人内に配置している担当の看護師がいる。また週1回以上訪問看護ステーションの看護師と調整を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時3日に1回は病院に訪問し、医療機関と連絡掉尾製を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した指針の説明を行いご家族様で重度化した終末期について話し合いをおこなってもらうよう説明している。</p>	<p>日頃から医師との情報連絡を密にしているほか、事業所内には看護職員のほかに、たん吸引ができる研修を受けた職員が12名配置しているなど、重度化にも対応できる体制を整えている。実際に重度化した場合には家族を含めて関係者で話し合いを行い、医療関係者とチームを組んで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>定期的実践指導を行っている。また、退院時や医療機関での研修に参加指導を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>半年1回に避難訓練を行い入居者様に意識をしていただく。また、近隣の同法人施設より応援体制を作っている。</p>	<p>実際の避難行動を伴う訓練を実施しているほか、事業所に隣接する崖に擁壁を設けるなど、防災のための対策を実施している。また、地域との防災協定に向けて具体的な項目に関する協議に入っており、地域との協力体制構築に向けた取り組みを進めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人内にて総務と施設長が指導し慎重に取り扱うよう徹底している。	一人ひとりの人格を尊重するために、個々の利用者の生活リズムやペースを大切にしている。そのために日常的に施設長が業務の中で職員に対し指導・声掛けを行っており、利用者向き合う介護を念頭に置いた対応を心がけるよう指導がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自由な表現が出来るよう、オープンクエッションを用いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まったプログラムやマニュアルは使用せず、個々のペースに合わせた生活を考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望があれば対応できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入所様が好みそうなメニューを取り入れる。食事づくりに関心を持ってもらうように声かけ。時にはホットプレートを使用し誰でも参加できるイベントや、季節にあったイベントで楽しんでいただけるようにしている。月に1回は外食も考え社会参加の機会を増やす。	併設事業所も含めた同一敷地内に厨房設備を有しており、調理したての食事を利用者に提供している。また、朝食はユニットごとに調理し提供している。利用者の食事に対する要望は随時施設長を含めて聞いているほか、正月などは施設長自ら元旦の朝におせち料理を作るなど、食事を楽しんでもらえるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分はお茶の時間や入浴後に提供し，必要な量を確保している。食事は野菜・魚を中心に献立を立てている。定期的に管理栄養士のチェックを受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>協力歯科医口腔ケアの指導に来てもらっている。必要な場合は歯科衛生士のチェックを受ける。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>出来る限り失禁に結びつかないように，小まめな誘導や，排泄感覚を見つけていけるよう支援している。</p>	<p>利用者の排泄の自立度に合わせ、トイレへの誘導や皮膚の状態の把握に努めている。また、トイレに早く行ってもらって失禁を防ぐために、トイレの位置や扉の場所を工夫しトイレへ入りやすい工夫をするなどの配慮もなされている。さらに、排泄を促すために一日1200cc経口摂取してもらっている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々の暮らしの中で調節できるようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>重度化に伴い，入浴は週2回～状態に合わせて週6回まで対応しているが，身体的負担を考慮し行っている。</p>	<p>気持ちよく入浴してもらえるように，浴槽は家庭的な浴槽であり，脱衣場も広くとっている。また，脱衣場と浴室は全体の床面が上がった作りになっており，仮に転倒した際も衝撃を吸収する作りになっている配慮もなされている。身体機能が低下した利用者も介助の工夫によりできるだけ気持ちよく入浴してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	ホーム内では出来るだけ自由に 生活を送ってもらえるように情 報収集を行っている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	入居者様の個々に内服薬のレジ メを用意し職員に周知徹底をし ている。また、変更や追加は受 診ノートに書き込み確認が出来 る。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	重度化に伴い適度な外出も行 えなくなっている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	重度化に伴い希望の汲み取り や実行が出来なくなっている。	衣替えの時季などには、利用者 と一緒に服を買いに行ったり、 外食も実施している。また、 地域行事への参加、受診時に ついでに買い物をするなど、 日常の中でできるだけ外出が できるように努力がなされてい る。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	金額は相談の上、希望があれば 可能である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	季節の挨拶状や施設の電話にて対応している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	写真を貼ったり作品を飾ったりして家庭的な雰囲気を出している。リビングは南向きで明るく集まりやすくなっている。	共有空間は広く開放的であり、大きな窓からは近隣の田園風景が一望でき、季節を感じることができる。また、リビングから少し離れた一角に、少し落ち着いて座れるソファースペースがあり、気分を変えてくつろげる空間の工夫もなされている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	個々で気に入った場所で過ごしてもらえるよう配慮をしている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	気に入っている物や馴染みのある物を持ち込んでもらっている方もあるが、重度化に伴い、家具が障害物や危険物などになってしまうことから、殺風景な空間となっている方もある。	居室はスペースも広く、利用者が馴染みのものを持ち込むことができるほか、部屋によっては壁際に腰掛けできる段があり、家族などの来客時にはくつろいでもらうこともできるなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	必要以上に介助をしないよう、空間や認識を維持向上できるよう「普通の暮らし」を提供している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームファミリーホーム

作成日 平成30年2月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	54	BPSDの増悪により私物を居室から一時預かりとしており、自分の部屋感が薄い。	一時預かりとなっていたご本人の私物を居室に戻し、本人の空間を取り戻す。	日々の整理整頓、清潔保持について徹底する。家具などを再配置していく。転倒リスクが急増するため注意が必要。	半年
2	17	入浴が業務的な部分があり、入居者のペースが生かしきれていない。ご本人の能力向上につながっていない。	個別時間を確保した入浴の提供。	入浴日を増やし、業務全体を見直していく。出来ることをやっていただける時間と場所を作る。	1年
3	49	入居者個別の外出支援の頻度が少ない。	外出支援の頻度を増やす。	外出が出来る体力づくりの実施（体操など）や、習慣的な外出頻度の増加。	1年
4	10	ケアプランの作成に対し専門職の意見に偏りがあるように感じる。	すべての職員がプランニングしていく。	チームワークを常に意識できる環境の整備。発言の機会を増やす。	1年
5	12	職員の育成について、指導できる職員が少ない。	皆で育てる環境を作る。	指導できる要綱の作成や新入社員が質問しやすい環境整理。中堅職員の振り返りを実施する	1年
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。